

R2DMS Uploader 使用手引書 (Windows バイナリ 版)

0.2 版

2025.09.30

データ管理システム開発ユニット) 平岡 千明

改訂履歴

版数	改訂日	改訂者	対象	改訂内容
0	2025.09.10	林寛生	全体	新規作成
0.1	2025.09.29	林寛生	全体	Poetry 版から変更
0.2	2025.09.30	平岡千明	全体	Windows バイナリ版変更

目次

1	はじめに	4
2	前提条件	4
3	インストール	4
4	設定ファイルの作成 (.env_control)	4
5	入力パラメタの準備	5
6	R2DMS Uploader の使用方法	6
付録.....		9
A. パーソナルアクセストークン.....		9
B. プロジェクト ID.....		11
C. エクセルファイルから CSV ファイルの変換.....		12

1 はじめに

このソフトウェア（R2DMS Uploader）は、GakuNin RDMに新規のプロジェクトを作成し、そのプロジェクトのストレージにローカルのデータをアップロードするためのツールです。本パッケージには、Windows用のバイナリ（r2dms_uploader.exe）が格納されています。

また、r2dms_uploader.exeの入力ファイルの作成を支援するための以下プログラムもパッケージに同梱されています。

- 1) エクセルデータから r2dms_uploader.exe の入力用の CSV ファイルに変換する [xlsx_to_csv.exe]

2 前提条件

動作 OS は、Windows(64bit)であることが前提です。

3 インストール

① 本ソフトウェアの取得

wegt コマンドや Web ブラウザ等で以下の URL よりダウンロードしてください。

https://dmsutil.riken.jp/tool/r2dms_uploader_win-0.0.3.zip

② 本ソフトウェアのインストール

ダウンロードした本ソフトウェアのパッケージ（ZIP ファイル）を、適当なフォルダーに解凍・展開してください。

エクスプローラー上で ZIP ファイルを右クリックして、表示されたメニュー内から「すべて展開」を選択します。その後、表示されるダイアログで展開先のフォルダーを指定して「展開」ボタンをクリックしてください。

4 設定ファイルの作成（.env_control）

本ソフトウェアの展開先のフォルダーに行き、適当なエディタを使って、以下のような .env_control ファイルを作成してください。

【.env_control ファイルの例】

```
GRDM_TOKEN="ABCDEFGHJKLM0123456789NOPQRSTUVWXYZ"
GRDM_OSFAPI="https://api.rdm.nii.ac.jp/v2"
GRDM_WBAPI="https://files.rdm.nii.ac.jp"
```

- ファイル名 (.env_control) は変更しないでください。
- 以下の 3 つの環境変数を設定してください。

環境変数名	説明
GRDM_TOKEN	ユーザが GakuNin RDM で設定した <u>パーソナルアクセストークン</u>
GRDM_OSFAPI	GakuNin RDM の OSF API のベース URL
GRDM_WBAPI	GakuNin RDM の WaterButler API のベース URL

- ✓ パーソナルアクセストークンの取得方法については、付録 A. を参照してください。
- ✓ 上記の .env_control の例に示す OSF API および Waterbutler API の URL は、NII の GakuNin RDM のものです。NII 以外の GakuNin RDM を利用する場合は、それぞれのシステム管理者にお問い合わせください。

5 入力パラメタの準備

適当なエディタを使って、以下に示すような入力ファイル（CSV フォーマット）を作成してください。Microsoft Excel を使う場合は、付録 C. を参照してください。

【入力ファイルの例】

```
"parent_id","prj_title","data_path","replace_flag"
"abcde","A sample child project 001","./sample_data","0"
,"A sample new project XYZ","./sample_data2","0"
"xyz01","./sample_data3","1"
```

- **UTF-8** でエンコードされた CSV ファイルを使ってください。
- 上の例で示した通りのヘッダー行（先頭行）を最初の行に置き、その後にデータ行を記述してください。
- 各データ行は、以下に定義する 4 個の要素の値（カンマ区切り）から構成されます。

要素名	説明
parent_id	既存プロジェクト ID (このプロジェクトの子プロジェクトとして新規のプロジェクトが作成される)
prj_title	新規プロジェクトのタイトル
data_path	アップロードするデータ（フォルダー or ファイル）のパス

replace_flag	上書きフラグ (0: アップロード先に同じファイルパスが存在するケースでは、そのファイルを上書きしない / 1: 同ケースにて上書きする)
--------------	---

- ✓ プロジェクト ID の確認方法は、付録 B. を参照してください
- ✓ 既存プロジェクト ID (parent_id) をブランクにすると、新規の独立したプロジェクトが作成され、そこにデータがアップロードされます。
- ✓ 既に作成済みのプロジェクトにデータをアップロードする場合は、そのプロジェクトの ID を既存プロジェクト ID (parent_id) に設定し、新規プロジェクトのタイトル (pri_title) をブランクにしてください。
- ✓ プロジェクトを作成するケースでは、上書きフラグはどちらの値でも構いません。

- 要素の順番は変えないでください。
- データ行の各要素の値は二重引用符 (") で括ってください。
- シャープ記号 (#) で始まる行は無視されます。
- 要素の値に二重引用符 (") を含めたい場合は、もう一つの二重引用符 (") を直前に置いてエスケープしてください。
- プロジェクトのタイトルに「<」や「>」を使えますが、それらは GakuNin RDM 上では「¥<」や「¥>」のように表示されます。
- サンプルの入力ファイル (sample_input.csv) を参照してください。

6 R2DMS Uploader の使用方法

本ソフトウェアを実行するには、エクスプローラーから r2dms_uploader.exe をダブルクリックします。

実行画面例)

```

Input file name(csv): input.csv
{"summary": {"message": "Completed.", "start_date": "2025-09-30T13:01:02.424101+09:00", "stop_date": "2025-09-30T13:01:12.031591+09:00", "work_host": "LAPTOP-RSBCUKH3", "work_dir": "C:\\riken\\pyinst_test\\r2dms_uploader_pkg\\r2dms_uploader_test", "exec_user_id": "Chiaki Hiraoka", "input_filepath": "input.csv", "output_filepath": null, "num_csvline_valid": 1, "num_proc_total": 1, "num_proc_succeeded": 1, "num_proc_failed": 0, "num_proc_skipped": 0, "processes": [{"proc_id": "00001", "status": "OK", "message": "Completed.", "start_date": "2025-09-30T13:01:09.457474+09:00", "stop_date": "2025-09-30T13:01:12.031591+09:00", "csv_input": [null, "r2dms uploader tool sample new project hiraoka test", ".\\hiraoka_data", "0"], "create_grdmpj": {"status": "OK", "start_date": "2025-09-30T13:01:09.457474+09:00", "stop_date": "2025-09-30T13:01:10.028715+09:00", "message": "Completed.", "internal_rc": 0, "parent_guid": null, "root_guid": null, "guid_created": "muw2z", "url_created": "https://dmsgdms.riken.jp:5000/muw2z/", "title_created": "r2dms uploader tool sample new project hiraoka test", "creator_guid": "uwc9n", "creator_name": "Chiaki Hiraoka"}, "wbclient": {"status": "OK", "start_date": "2025-09-30T13:01:10.028715+09:00", "stop_date": "2025-09-30T13:01:12.030587+09:00", "message": "Completed.", "local_path": ".\\hiraoka_data", "target_project_id": "muw2z", "storage_provider": "osfstorage", "remote_dir": "/", "replace_flag": "0", "upload_result": {"osfstorage/hiraoka_data/": "created.", "osfstorage/hiraoka_data/hiraoka_input.xlsx": "uploaded.", "osfstorage/hiraoka_data/hiraoka_output.csv": "uploaded."}}]}]}
Press Any Key to Exit

```

ダブルクリックすると、実行画面が表示されます。

入力 CSV ファイルの入力待ちとなり、CSV のパスを入力し Enter を入力すると処理が実行されます。実行後は Enter キーの入力が求められるので、Enter キーで画面を閉じます。

Enter キーの入力を行いたくない場合には、実行時に「-y/--yes」オプションを使うことで無効にできます。

【r2dms_uploader.exe で使用できるオプション】

```
r2dms_uploader.exe -i/--input {CSV ファイルパス} -o/--output {json 結果処理サマリファイルパス} -y/--yes
```

- オプションの指定する場合は、r2dms_uploader.exe プログラムのショートカットキーを作成し、リンク先(T)の欄にオプションを追加してください。
- .env_control ファイルも同じフォルダーに格納してください。
- -i（または--input）オプションで入力の CSV ファイルパスを指定した場合は、実行時には入力を求められません。
- 処理のサマリ(JSON フォーマット)が返されます。
- -o（または--output）オプションで出力ファイルパスを指定しない場合は、実行画面に処理のサマリが表示されます
- サンプルの出力ファイル（sample_output.json）を参照してください。
- -y（または--yes オプション）が指定された場合は、実行後に画面を閉じる際の Enter キーの入力をスキップします。

処理のサマリとして出力される内容は、次ページの通りです。

```

{
  "summary": {
    "message": 処理全体に関するメッセージ
    "start_date": 処理全体の開始時刻(YYYY-mm-ddTHH:MM:SS.ffffff+HH:MM ; 時刻に関してはすべて同じ形式)
    "stop_date": 処理全体の終了時刻
    "work_host": 実行ホスト名
    "work_dir": 実行フォルダーパス
    "exec_user_id": 実行ユーザ ID
    "input_filepath": 入力ファイルパス
    "output_filepath": 出力ファイルパス
    "num_csvline_valid": 入力ファイルの有効 CSV 行数
    "num_proc_total": 全処理数
    "num_proc_succeeded": 成功処理数
    "num_proc_failed": 失敗処理数
    "num_proc_skipped": スキップ処理数
    "processes": [ ※以下の要素を CSV ファイルの有効行ごとの配列データとして格納
      {
        "proc_id": 処理番号(1 スタートの連番)
        "status": ステータス(OK/NG/SKIPPED)
        "message": 処理に関するメッセージ
        "start_date": 処理開始時刻
        "stop_date": 処理終了時刻
        "csv_input": [ 処理対象の入力 CSV 行の内容
          "`parent_id` の値",
          "`prj_title` の値",
          "`data_path` の値",
          "`replace_flag` の値"
        ],
        "create_grdmprij": { ※「create_grdmprij」機能の実行結果として以下の要素を格納
          "status": ステータス(OK/NG/SKIPPED)
          "start_date": 開始時刻
          "stop_date": 終了時刻
          "message": この関数からのメッセージ
          "internal_rc": 内部リターンコード(0:正常終了/0 以外: 異常終了)
          "parent_guid": 作成したプロジェクトの親プロジェクトの ID
          "root_guid": 作成したプロジェクトの一番上の親プロジェクトの ID
          "guid_created": 作成したプロジェクトの ID
          "url_created": 作成したプロジェクトの URL
          "title_created": 作成したプロジェクトのタイトル
          "creator_guid": プロジェクト作成者の ID
          "creator_name": プロジェクト作成者の名前
        },
        "wbclient": { ※「wbclient」機能の実行結果として以下の要素を格納
          "status": ステータス(OK/NG/SKIPPED)
          "start_date": 開始時刻
          "stop_date": 終了時刻
          "message": この関数からのメッセージ
          "local_path": アップロードするデータ(フォルダー/ファイル)のパス
          "target_project_id": アップロード先の GakuNinRDM のプロジェクト ID
          "storage_provider": アップロード先のストレージ名
          "remote_dir": アップロード先のフォルダー
          "replace_flag": 上書きフラグの値
          "upload_result": { ※アップロードされたフォルダー/ファイルとアップロード結果のリストを以下に格納
            "リモート/フォルダー/パス/": "created." または "already exists.",
            ...
            "リモート/ファイル/パス": "uploaded." または "replaced." または "found (not replaced)",
            ...
          }
        },
        ...
      },
      ...
    ]
  }
}

```

... CSV ファイルの次の有効行に関する処理結果が格納される

...

付録

A. パーソナルアクセストークン

環境変数の GRDM_TOKEN で指定するパーソナルアクセストークンは、GakuNin RDM にて以下の手順で設定します。

- 1) GakuNin RDM にログイン後、画面右上のユーザ名をクリックし、「設定」を選択します。



- 2) 左メニューから「パーソナルアクセストークン」を選択し、「新規トークン」ボタンをクリックします。



- 3) 以下のようにトークン名（任意）とスコープを設定し、「作成」ボタンをクリックします。



- 4) トークン ID が作成されますが、この時点では保存されていないため、「保存」ボ

タンをクリックします。

設定

プロフィール
アカウント設定
アドオンアカウント構成
メール通知設定
開発者アプリ
パーソナルアクセストークン

« 登録済みトークンのリストに戻る

トークン名

スコープ ☒ osf.full_read ☒ osf.full_write ☒ osf.users.email_read ☒ osf.users.profile_read

キャンセル 削除 保存

新しい個人用アクセストークンが正常に生成されました。このトークンは期限切れになりません。このトークンを他の人と共有しないでください。誤って公開された場合は、すぐに無効にする必要があります。

画面を離れると、トークンは二度と表示されません

トークンID

クリップボードにコピー

- 5) 「クリップボードにコピー」 ボタンをクリックしてトークン ID をコピーし、ファイル等に保存します。(※この文字列を GRDM_ACCESS_TOKEN に指定してください)

設定

プロフィール
アカウント設定
アドオンアカウント構成
メール通知設定
開発者アプリ
パーソナルアクセストークン

« 登録済みトークンのリストに戻る

トークン名

スコープ ☒ osf.full_read ☒ osf.full_write ☒ osf.users.email_read ☒ osf.users.profile_read

キャンセル 削除 保存

トークンデータが更新されました

画面を離れると、トークンは二度と表示されません

トークンID

クリップボードにコピー

- 6) パーソナルアクセストークンの画面に戻り、作成したトークン名が表示されていることを確認します。



B. プロジェクトID

入力 CSV ファイルの parent_id で指定するプロジェクト ID は、GakuNin RDM のプロジェクトに付与されている ID (英数 5 文字) のことです。プロジェクトの URL の末尾の 5 文字 (/を除く) が該当しますので、ブラウザでプロジェクトのページにアクセスし、アドレスバーから確認してください。



C. エクセルファイルから CSV ファイルの変換

入力用の CSV ファイルを作成するのに Microsoft Excel を使う場合は、以下のようになります。

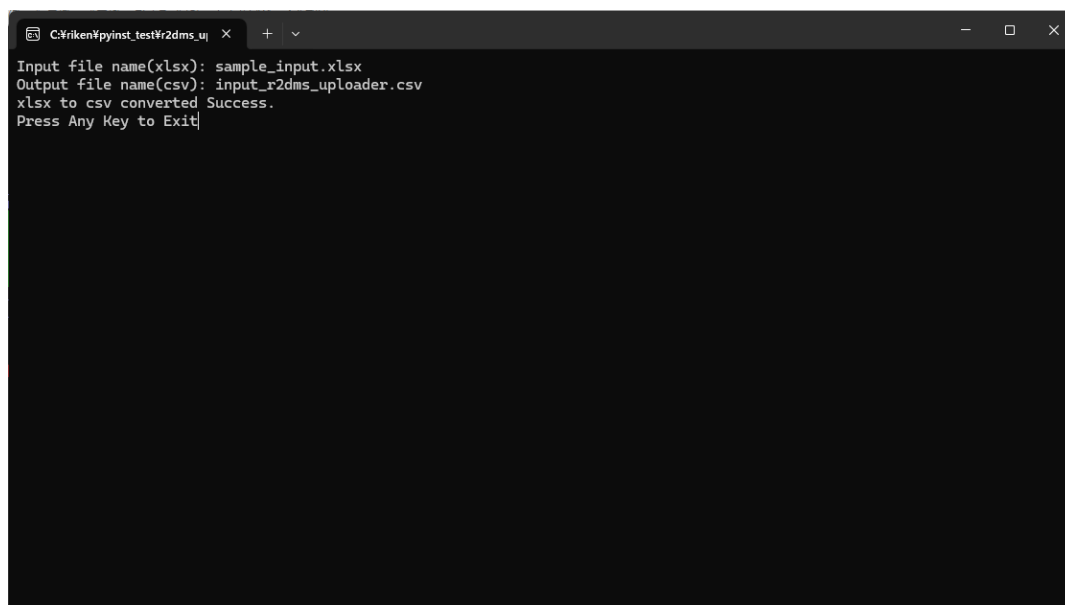
1) エクセルファイルの作成

sample_input.xlsx ファイルを適当なファイルにコピーし、Microsoft Excel で開いて中のデータを変更・追記します。データの詳細については、5 章を参照してください。なお、各カラムの値はダブルコーテーションで囲まないでください。（そのままデータをカラムに入力）

2) エクセルファイルから CSV ファイルを作成するプログラムの実行

1) で作成したエクセルファイルから r2dms_uploader.exe 用の入力ファイル (CSV) を作成します。エクスプローラーから xlsx_to_csv.exe をダブルクリックしてください。

実行画面例)



```
C:\#iken\pyinst_test\#r2dms_uploader
Input file name(xlsx): sample_input.xlsx
Output file name(csv): input_r2dms_uploader.csv
xlsx to csv converted Success.
Press Any Key to Exit
```

ダブルクリックすると、実行画面が表示されます。

エクセルファイル名 (Input) および CSV ファイル名 (Output) の入力待ちとなり、それぞれ入力して Enter を押すと、CSV ファイルを作成します。CSV 作成後は Enter キーの入力が求められるので、Enter キーで画面を閉じます。

Enter キーの入力を行いたくない場合には、実行時に「-y/--yes」オプションを使うことで無効にできます。

【xlsx_to_csv.exe で使用できるオプション】

```
xlsx_to_csv.exe [-i/--input {xlsx ファイル}][--output {CSV ファイル}][--yes] [-h/--help] [-v/--verbose]
```

- オプションの指定方法は、ダウンローダープログラムのショートカットキーを作成し、リンク先(T)の欄にオプションを追加してください。
- xlsx_to_csv.exe が格納されているフォルダー以外で実行する場合は、xlsx_to_csv.exe までのパスで指定してください。
- -i (または--input) オプションで入力のエクセルファイルを指定した場合は、実行時には入力を求められません。
- -o (または--output) オプションで出力の CSV ファイルを指定した場合は、実行時には入力を求められません。
- -y (または--yes) オプションが指定された場合は、実行後に画面を閉じる際の Enter キーの入力をスキップします。
- -h (または--help) オプションが指定された場合は、ヘルプを表示します。
- -v (または--verbose) オプションが指定された場合は、Usage を表示します。